『みことばを聞いて』（マタイの福音書 13 章1-9, 18-23 節）2022.8.14.

＜はじめに＞ 先週はイエスがたとえを話す意図(9-18)に目を留めました。今日はその前後にあるたとえを味わいます。たとえそのものは子どもでもわかる物語です。そこにイエスはどんな意味を込められたのでしょう。そして、それは今日の私に何を語り掛けて来るのでしょう。

Ⅰ　たとえと解き明かし

①たとえ話の振り返り(3-8)

どんなタイトルが相応しいでしょうか。この物語を短い紙芝居にすると何枚になりますか。
それぞれの種は、a)芽生えましたか b)生長しましたか c)実を結びましたか。
同じ種袋から蒔かれたのに、種のその後は様々です。何通りが描かれていますか。

②イエスの解き明かし(19-23)

イエスは、種、蒔かれた土地はそれぞれ何で、種が蒔かれ、地に落ちることはどんなことだと言われていますか。それぞれの土地にだけ出て来る事柄は、何を示しているでしょう。
このたとえを通して、イエスは何について教えようとされているのでしょうか。

③耳のある者は聞きなさい(9,18)

イエスの決まり文句の一つです。不思議な言い回しは何を伝えようとされているのでしょう。
イエスが求めるのは五感の聴力・視力や知的理解力ではありません。「天の御国の奥義」(11)を悟り、受け入れて育み、やがて豊かに結実に至る、その第一歩が聞くことです。

Ⅱ　たとえから汲み出す

①良い地を眺めると(23)

種はいのちの凝縮で、条件が整うと発芽し、上に葉茎を、下に根を伸ばします。土が種を包み、発芽条件を整え、養分を供給し、根が張ることでしっかりと支えます。そうすると、やがてその種と同じ実をたわわに実らせ、収穫の時を迎えます。これが期待された姿です。

②根を張る(21,23)

みことばを聞く機会は第一歩です。それが自分の心と生活に入って来ているでしょうか。
みことばは私たちと一体となって成長し、根ざすその人にふさわしい天の御国のいのちの表れとなります。

③成長を妨げるもの(19-22)

みことばを受け入れない頑なさは最大の障害です(19)。浅薄さはみことばが根ざすことを許しません(20)。すぐに聞いても、奥に潜む固い石の心がみことばを拒みます(21)。天の御国のいのちとこの世の価値観を両取りはやがてみことばの成長を塞いでしまいます(22)

Ⅲ　結実に関わるイエス

①みことばにいのちが

文字、言葉が人の心に宿り、成長すると、驚くべき変化と結果を生じます。「神のことばは生きていて、力があり」(ヘブル 4:12)ます。神からのいのちのことばを聞き、語られることを受け入れていくとき、一人ひとりにユニークで、しかし神のいのちを表す実を結びます。

②種を蒔く人(4-8)

種は「落とした」のではなく、「落ちた」とあります。わずかな種を場所を狙ってではなく、有名な絵画のように広くたくさん種を蒔きます。種を蒔く人はイエスご自身です。御国のことばも多くの人に幾度も語られ、聞く機会を与えられおられます。

③良い地に整える

種を蒔く農夫は、その土地を耕し、異物を取り除け、柔らかにし、肥料も施し、折々に世話をします。同じようにイエス・キリストも私たちにかかわり、多くの実を結ばせようとしてくださいます。この方に関わっていただくことを拒まなければ、私たちも良い地になれるのです。

＜おわりに＞ この世の中は「結果を出せ」と迫り、結果で評価します。しかし「がんばらなければ」にも限界があります。しかし、イエスは私たちにかかわり、実を結ばせようといのちのことばを語り掛け、関わろうと手を差し伸べておられます。その御手に自らを委ねませんか。(H.M.)